複合社会の形成原理に関する基礎研究

1．研究組織

研究代表者：水島　　司（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・助教授）
研究分担者：永田　淳嗣（東京大学教養学部・助手）
西井　涼子（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・助手）
三尾　裕子（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・助教授）
佐藤　哲夫（駒沢大学文学部・助教授）

2．研究のねらい・目的

本研究の主要な目的は、マレー半島部についての過去100年余りの時期に関する歴史情報地図の作成のためのデータベース作りであった。具体的作業としては、第一に、既に東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所に納入されている800本近いマレーシア国立文書館作成のマイクロフィルムをプリントし、加えて、他の研究機関に保管されているマレーシア関係の一次資料に関する情報を集めることである。作業の第二は、これらの資料に含まれているヴィジュアルな情報を、歴史の流れにそってテーマごとにより立体的、視角的な形で提示する情報地図を作成していくというものである。これらの作業は、マレーシアを対象として、複合社会における形成原理に関する理論的諸仮説を提示し検討するための基礎作業として位置づけられるものである。

3．平成６年度の研究経過

作業の大半は、マイクロフィルムのプリントアウトであったが、これはアルバイトを雇用して順次行った。しかし、フィルム量が極めて多いため、まだ未プリントのフィルムが残された。続く重要な作業は、データベース作成のためのファイル形式・データ形式の統一、用いる電算機・ソフトウェアの選定、検索条件の規格化などであった。この作業に関しては、いくつかの技術的な問題があったが、試行錯誤の後、次の選択を行った。まず、ファイル形式としては、ＰＩＣＴ形式、電算機はマッキントッシュ、ソフトウェアは船舶部品管理用に開発されたという日立造船作成の「iServe」とした。同ソフトウェアは、情報を単に図像として管理するのではなく、関連するソフトウェアと連動させうるという特徴をもっており、そのため、二次利用者が表やグラフをさらに処理することが出来る。検索条件は、このソフトウェアの特徴を生か

し、入力者が主観的に検索条件を設定することを控え、地図名、図表名などをそのまま入力し、それらと文献・資料リストとを相互に連動させることとした。こうした作業を元にして、関連する資料のパソコンへの入力作業を進めた。この作業結果に関しては、本年度までに入力したものに加え、さらにデータの充実を図り、情報地図を整備し、早急にＣＤによるデータ集を発行することを目指している。

本年度は、こうしたデータベース作成という基礎作業と並行して、本研究の目的と関連して、佐藤を除く全メンバーがマレー半島での現地調査を行った。まず水島は、科学研究費による海外学術調査により、マレーシア中部に位置するクアラ・カンサル地域の一農村における土地移動の歴史的変動に関する調査と、クアラ・カンサルの都市形成に関する調査を３カ月間実施した。前者については土地政策史と土地移動の実態分析の論文としてまとめた。また、現状に関して、マレーシアの多民族状況下でのアファーマティヴ・アクション（マレー民族優遇政策）に関して学会で口頭発表し、それを論文としてまとめた。さらに、マレーシアを含む世界的なレヴェルでのエスニシティー研究の動向と今後の展望に関して、２度にわたり口頭発表した。永田はマレー半島南部のジョホールで、農業開発と村落の変容を、ジャワ人、華人双方の移民社会に注目しながら、1994年10月から２年間の予定で調査を開始し、その成果の一部を論文と研究ノートの形で発表した。西井は、マレー半島中央部のイスラーム教徒と仏教徒との混合地帯である南タイのサトゥーン県において３カ月間の調査を実施し、それを研究会において口頭発表した。三尾はシンガポール及びマレーシアにおいて、華人系移民のネットワークの拠点となる廟の分布及び機能について２カ月間の調査を行った。これらの調査結果については、本研究でのデータを利用した論集発行の準備を進めている。

４．研究の成果とフロンティア

当初目指していた情報地図の作成作業は、プリント作業を始めとして、まだ膨大な作業が必要であることが判明しており、さらに今後も作業を続けなければならない。本年は、このデータ整理とその情報地図化については未完成となったが、メンバーのそれぞれは、それらのデータを一部利用する形で、自らの海外調査の成果のとりまとめに生かすことが出来た。具体的な研究成果の今後の発表計画としては、本年の７－８月を目標にして、本研究の参加者を主体とし、参加者以外の研究者も寄稿する形でマレーシア関係の論文集を発行する準備を既に進めている。即ち、参加者の内、水島は、クアラ・カンサルの都市形成に関する歴史地図情報を中心とした論文を、西井は南タイでの仏教徒・イスラーム教徒の混住地域の村落に関する論文を、

永田はジョホール州の地域開発の歴史的展開と生態環境の変化についての論文を、三尾は華人社会についての論文をそれぞれ用意しており、他に、鹿児島大学の黒田がサムサム（マレー半島のイスラームコミュニティー）について、慶応大学の野村がサバの華人社会について、それぞれ寄稿することを予定している。

5．今後の課題

データベース作成については、まだ多くのフィルムがプリントアウトと入力を待っているという状況から、入力情報を利用可能な形にまでもっていくことが出来ていない。これについては、この研究計画自体は本年度で終了するものの、今後も作業を続け、早急にＣＤの形で提供したいと考えている。

こうした基礎作業の次の段階として、こうした情報地図にもとづいて、マレーシアを中心として複合社会における形成原理に関する理論的諸仮説を検討することが目標となる。この点に関しては、海外調査を繰り返し、論文等の形で発表していきたいと考えている。

6．研究業績（平成６年度発表分）

水島　司

「マレー半島におけるクォータ制の展開」『歴史学研究』658： 57-58, 1994.

「マレー半島におけるクォータ制の展開」『歴史学研究』増刊号： 140-147, 1994.

"Mirasi Production System in Pre-Colonial South India" *The 39th International Conference of Orientalists in Japan*, The Toho Gakkai： p. 33, 1994.

「マレー半島ペラ地域における土地行政」『東南アジア―歴史と文化―』23: 22-42, 1994.

「南インド乾地農村の変化と不可触民」『叢書　カースト制度と被差別民 第４巻』明石書店, 133-135, 1995.

「インドの聖と霊」『叢書　カースト制度と被差別民 第１巻』明石書店, 409-423, 1994.

「プランテーション世界とタミル移民」『叢書　カースト制度と被差別民 第４巻』明石書店, 451-495, 1995.

Local Societies in Malaysia, vol. 2, ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies, 1994. (Ed.) "Historical Study on Land Transaction in a Perak Kampong, Malaysia." *Regional Views*, 1995. (forthcoming).

「地域社会の統合原理―ミーラース体制」『インド入門II　ドラヴィダの世界』東京大学出版会, 208-221, 1994.

永田淳嗣

「マレーシア・ジョホール州における農業開発の文化生態学的研究」『福武学術文化振興財団平成５年度年報』1994.

「ジョホール・マラッカ海峡沿岸における在地権力者の農園経営」『東南アジア研究』32-3：357-384, 1995.

"A Note on Land Title, Mukim Sungai Penggor, Johor State" Regional Views : 1995.(forthcoming)

西井涼子

研究発表「南タイの村落におけるイスラームと仏教の『共存』のあり方」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、東南アジアにおける「共存」・「共生」の思想プロジェクト第2回研究会)

研究発表「実践宗教としてのイスラーム教と仏教—南タイの村落における『共存』のあり方—」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、所内研究会)

三尾裕子

「漢民族と周辺少数民族の文化の接触と変容 第2回研究会」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所『通信』80号: 31-32, 1994.

「光棍倶楽部の政治評論家達」『異文化との出会い—アジア・アフリカのフィールドノートから』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所: 217-219, 1994.

"Deified Ghosts: Popular and Authorized Interpretations of Religious Symbols." In Perspectives on Chinese Society, Views from Japan, ed. by Suenari Michio, et al., ILCAA: 132-151, 1994.